

授業者	記録者
助言者	

1 授業者自評

- ・前時まで減加法を学習して来た。10のまとまりから引くことを意識づけてきた。
- ・子供たちのほうから減々法の考えが出ていた。
- ・初めて減々法を扱うにあたって心配もあったが、机間巡視すると減々法で考えている子が予想より多かった。
- ・3つのケーキをどこから取るかの場面に時間をかけすぎた。
- ・子供たちがどこまで理解出来ているかを把握できているか見とれていなかった。
- ・共有の仕方等、ご指導助言頂きたい。

2 質疑応答

- ・話し合い活動の際の評価の見取りをどうしているのか。

→難しい。話し合い活動の際にはできない場合は適応問題で評価をするようにしている。

・

3 全体協議

- ・ペアでの学習のあと、だれてしまうことがあるが、違う人の考えを説明してみようとする働きかけは良い手立て。
- ・ワークシート、先生からの声掛けが素晴らしい。説明の際に、友達同士で共有を広げていくことも出来るのではと感じた。ペア学習を積み上げているのがよく分かる。
- ・話し合い活動の際の評価の見取りをどうしているのか。→難しい。話し合い活動の際にはできない場合は適応問題で評価をするようにしている。
- ・適応問題までいくために5分延長はどうなのですか。→研究授業では難しい。
- ・教室掲示が思い出しに効果的になっている。
- ・子どもたちから算数用語がから説明しよう。発表の仕方は撮影して後に評価する。

4 指導・助言

- ・減加法を学習してきているため、減々法が出ないのではないかと思ったが、導入までがとてもスムーズに進む。これまでの学習の工夫が生きている。しかしながら最後まで集中出来ない子もいるため、その子たちへの支援も必要。
- ・説明をするというねらいの際に、言葉の指導をしっかりすることが大切。言葉で説明することが得意な子、視覚優位で苦手な子への支援をどうするか。
- ・本時のめあて2つの達成のために、丁寧な展開であったが、最初から算数ブロックを使って説明するという学習展開でも良かった。
- ・対話的な学びという観点、相手の話を理解しようとしながら聞くということが出来ていた。
- ・どちらの方法かで自信を持ってできるようにすることが大切。